

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターかしのき園（指定日通園）		
○保護者評価実施期間	令和7年 11月 1日 ～ 令和7年 11月 30日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18名	(回答者数) 12名
○従業者評価実施期間	令和7年 11月 1日 ～ 令和7年 11月 30日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 1月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・保護者同室の療育であることが強み。保護者が療育を通して指導員の関わり方を知り、家庭でも取り組んでもらうことができる。	・子どもの気持ちを代弁したり遊びの見本を見せたりすることで、子ども自身の理解を深めることを目標とし、保護者が同室であることで、保護者も子どもへの理解を深めることができるようになる。	・療育の場面だけでなく、家庭での困りごとを保護者から聞き取り、対処の仕方を提案する。
2	・幼稚園や保育園などの集団に入る前の幼児にとって初めての他児との関わり場の提供することができる。 (親子同室の安心できる空間で、2～4組の親子での少人数グループがある。)	・毎回同じ流れで、自由遊び、お片付け、トイレ、設定保育を行う。 ・設定の内容を同じにすることで次に何があるかが分かり、落ち着いて参加することができる。無理強いせず、その場にいること、見ることから徐々に参加し、集団に慣れるようにする。	・毎回する同じ取り組みが定着してきたら、設定に新しいものを取り入れたり、保護者と分離する時間を設けたりすることを検討する。
3	・個別の課題に取り組むことができる。	・就学前に、学習面で躓きそうな認知の課題がないか検討し、遊びの前に課題に取り組む時間を設けたり、遊びに取り入れたりする。	・対人面や社会性の課題で、子ども同士でルールのある遊びができるようグループを組む。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者のニーズが短い時間に集中し、時間割に偏りがでてしまう。	・働いている保護者が増えた。 ・早くから幼稚園や保育園に入る子が増えた。	・時間割の設定時間の変更を検討。朝、療育を受けてから保育園に戻ることや幼稚園に早めにお迎えに行ってもらうことを提案する。
2	・指導員の確保が難しい。	・保護者同室の療育であることで、指導員の知識と経験が必要となる。	・子どもの療育をしながら保護者へのアドバイスができるまで指導員を二人体制にするなどしている。 ・保護者へのアドバイスがしやすいよう、アセスメントシートを見直す。 ・支援の方向性を毎週職員で話し合う。
3			